



黒田如水像（福岡市博物館所蔵）

# 黒田官兵衛

## 希代の軍師「大河」で脚光

希代の軍師として豊臣秀吉の天下統一を助けた姫路生まれの戦国武将黒田官兵衛（1546～1604年）。その生涯を描く来年のNHK大河ドラマ「軍師官兵衛」の収録がこの夏、いよいよスタートする。兵庫とかかわりの深い歴史上の人物が取り上げられるのは、去年の「平清盛」、そして主人公新島八重の最初の夫で、出石藩出身の川崎尚之助が登場する今年の「八重の桜」に続いて3年連続だ。官兵衛の大河ドラマ化へラブコールを送ってきた姫路をはじめとする地元播磨では、観光客誘致など大河効果への期待が日に日に高まっている。小説やビジネス書などで「最強のナンバー2」とも評される軍師官兵衛。ドラマを機にその人物像に触れ、ゆかりの地播磨にも訪れてもらおうと、各地での観光キャンペーンも本格化、ドラマ化を受け誕生したゆるキャラ「かんべえくん」もPRに一役買っている。来年1月の放送開始まで半年足らず。官兵衛をめぐる東京での動きを追った。（神戸新聞 東京支社 編集部長 志賀俊彦）

## 「堂々とした官兵衛を」

ゴールデンウィーク明けの5月10日、東京渋谷区のNHK放送センターに2014年の大河ドラマ「軍師官兵衛」の主要キャスト6人が勢ぞろいした。

「さまざまな人に出会い、成長したり変化したりする役割。共演者の皆様に指導いただきながら、堂々とした官兵衛を演じられたらと思っっています」



勢ぞろいした「軍師官兵衛」の主要キャスト。「堂々と演じたい」と主役の岡田准一さん  
=東京都渋谷区神南、NHK放送センター

記者会見でそう意気込みを語ったのは、主役の黒田官兵衛を演じる岡田准一さん。人気アイドルグループV6のメンバーとして、音楽やバラエティなどで活躍する一方、数々のテレビドラマや映画に主演する、若手の実力派俳優だ。「どうい官兵衛になっていくのか。(自分でも)楽しみ」という。

昨年10月に主役に決まった岡田さんを除く5人の配役はこの日、新たに発表された。

現在の加古川市志方町が出生地とされる官兵衛の正室光役の中谷美紀さんは、今回が大河ドラマ初出演。役づくりについて「少し型破りで跳ね返りのキャラクター。(主役の岡田さんとともに)戦国の新しい夫婦像を演じていきたい」。

官兵衛と共に豊臣秀吉を支え、「両兵衛」とも呼ばれた参謀竹中半兵衛を演じるのは、谷原章介さん。「動の官兵衛、静の半兵衛という対照的なところをどう表現するか。そして正反対な2人がどう友情を育んでいくのか」と役づくりのポイントを挙げる。

ほかに官兵衛が最初に仕えた御着城城主の小寺政職に片岡鶴太郎さん。秀吉の妻おねに黒木瞳さん。姫路城代で小寺家の筆頭家老を務めた官兵衛の父黒田職隆は、ベテランの柴田恭兵さんが演じる。

チーフ・プロデューサーの中村高志さんは「官兵衛の生まれ故郷である播磨国姫路。そして、織田信長、豊臣秀吉が出てくる、いわば『中央政界』。大きな2つの流れが、官兵衛を中心に1つの流れに絡み合っていくのが今回のドラマ」とアピールする。

クラシック・インは8月の予定。官兵衛がかかわった3人の天下人、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の配役は、後日発表される。

## 地域活性化へ 首都圏でも情報発信

大河ドラマの主要キャスト発表記者会見が行われた翌週、オープン1周年を迎える人気スポーツ「東京スカイツリー」(東京都墨田区)に官兵衛がやってきた。と言ってもお目見えしたのは、ゆるキャラ「かんべえくん」。官兵衛生誕の地、姫路をPRする観光キャンペーンに合わせ、初めての上京となった。

姫路市では2月、大河ドラマ「軍師官兵衛」を地元播磨の観光、経済の活性化につなげようと、「ひめじ官兵衛プロジェクト推進協議会」(会長・石見利勝姫路市長)が発足。「商業振興」「おもてなし」など5つの部会を設け、自治体や民間企業などが一体となり、

イベントや情報発信に取り組んでいる。専用の「フェイスブック」ページや「ツイッター」アカウントなども設け、積極的にPR活動



大河ドラマ放送を機に播磨の活性化を。官兵衛を取り上げた数々の観光パンフレット



官兵衛ゆかりの地、姫路の観光キャンペーン。ゆるキャラ「かんべくん」や「しろまるひめ」もPRに一役＝東京都墨田区押上

を展開していく。

放送開始に合わせ、来年1月には姫路市本町の家老屋敷跡公園内に「大河ドラマ館」がオープン。「官兵衛の歴史館」も期間限定で開設し、それぞれ60万人の入館者を目指している。

今回の東京でのキャンペーンもこうした取り組みの一環。観光客誘致には首都圏での情報発信は欠かせることができない、と姫路市が企画した。

会場となったスカイツリー5階の「全国観光PRコーナー」には、ドラマに合わせたポスターや官兵衛が使っていたというお椀型の「朱塗合子形兜」のレプリカなどを展示。清酒や和菓子、皮革製品といった特産品も並べたほか、姫路城の平成の大修理を見学できる施設「天空の白鷺」は映像で紹介した。

また、「かん



官兵衛がかぶっていた「朱塗合子形兜」のレプリカ

べくん」と共に姫路城をかたどったゆるキャラ「しろまるひめ」も登場し、観光客と一緒に写真に収まるなどして、「官兵衛のふるさと姫路へ」と呼びかけた。

姫路市東京事務所の担当者は「ドラマに合わせて、ゆかりの地姫路、播磨の魅力を首都圏でいかにアピールできるかが勝負。あらゆる機会を利用してPRに努めたい」と力を込める。

## 東京生まれ、東京育ちの16代当主

黒田家ゆかりの地といえば、姫路、播磨以外にルーツの滋賀県、そして黒田藩のあった福岡県など九州が知られているが、ここ東京もその1つだ。黒田家16代当主の黒田長高さん(61)は東京生まれ、東京育ち。現在も港区赤坂に暮らす。自宅周辺一帯は、江戸時代の福岡黒田藩中屋敷跡。敷地面積は2万坪に上ったという。地下鉄溜池山王駅から赤坂駅方面に延びる路地も、かつてはお屋敷の中の通路だったという。

長高さんが、黒田家と播磨との縁を意識し始めたのは、20代後半。兄を亡くし、家督相続が決まった後に読んだ司馬遼太郎の「播磨灘物語」がきっかけだったという。

2006

年からは毎夏、姫路で開かれるお城まつりで、鎧兜に身を包んで祖先



黒田家16代当主、黒田長高さん＝東京都港区赤坂

官兵衛に扮し、武者パレードに参加している。

「決して、世間で言われるような謀略家ではなかったと思う。戦いを決して好まない。人を裏切らず、信じる。戦国の世では異質の武将だったのではないか」。長高さんの目に祖先の官兵衛はそう映る。

だから、関ヶ原の戦いの後、筑前52万3千石を与えられ、「喜ぶ家康から両手で手を握られた」と話す長政に、「そのとき、お前の空いた手は何をしていたのだ」と尋ねたという、官兵衛の天下への野望を示すエピソードにも疑問を投げ掛ける。

「恩を仇で返すようなことはしないはず。九州平定も天下取りを考えてやったのかどうか…」

そんなことを考えながらドラマを見ると、希代の軍師の心の内に迫れるかもしれない。

「戦国の世にもこんな武将がいたことを、若い人達には是非知ってもらいたい」と長高さんは期待する。



「姫路お城まつり2012」で官兵衛に扮し、パレードする黒田長高さん＝2012年8月、姫路市本町

## 【黒田官兵衛の生涯】

- 1546 (天文15) 年 姫路城代黒田職隆の長男として生まれる。幼名は萬吉。
- 61 (永禄 4) 年 御着城主小寺政職の近習として仕える。
- 62 (永禄 5) 年 元服、官兵衛孝高 (よしたか) を名乗る。
- 67 (永禄10) 年 志方城主櫛橋伊定氏の娘光姫と結婚。家督を継ぎ、姫路城代となる。
- 68 (永禄11) 年 嫡男長政誕生。幼名は松寿丸。
- 75 (天正 3) 年 主君に織田信長への帰属を説得。岐阜で信長に拝謁し、名刀「圧切長谷部 (へしきりはせべ)」を授かる。



(福岡市博物館所蔵)



黒田長政と黒田二十四騎図 尾形探香筆  
(福岡市博物館所蔵)

- 76 (天正 4) 年 英賀ノ浦 (姫路市飾磨区) で毛利の大軍を迎え撃ち、退ける。
- 77 (天正 5) 年 播磨入りした秀吉に姫路城を提供。
- 78 (天正 6) 年 三木の別所氏らが毛利に寝返る。信長に謀反を起こした摂津国有岡城主荒木村重の説得に向かうが、幽閉される。
- 79 (天正 7) 年 有岡城落城。家臣に救出される。
- 80 (天正 8) 年 秀吉に姫路城を譲り、国府山城に移る。揖東郡などで1万石を与えられる。
- 82 (天正10) 年 本能寺の変。秀吉に「中国大返し」を進言し、山崎の合戦で明智光秀を討つ。
- 83 (天正11) 年 キリスト教に入信。洗礼名はシメオン。
- 87 (天正15) 年 九州征討の功により、豊前国 (福岡、大分両県の一部) 6郡12万石の国守となる。
- 89 (天正17) 年 家督を長政に譲り、如水と名乗る。
- 90 (天正18) 年 秀吉の小田原城攻めで、北条氏との講和をまとめ無血開城させる。
- 93 (文禄 2) 年 朝鮮出兵から許可なく帰国。秀吉の怒りを買って謹慎。
- 1600 (慶長 5) 年 関ヶ原の合戦で東軍につき、その後九州の大半を制圧。
- 04 (慶長 9) 年 伏見屋敷で死去。

## ■黒田官兵衛 (孝高、如水)

1546 (天文15) 年11月29日、御着城 (現在の姫路市御国野町御着) 城主小寺政職に仕えていた黒田職隆の長男として、姫路に生まれる。幼名は萬吉。元服して官兵衛孝高を名乗る。20代始めに政職の縁戚にあたる光と結婚。同時に家督を継ぎ、小寺家の家老、姫路城代となる。

当時の播磨は、東に織田信長、西に毛利と二大勢力のはざまにあったが、官兵衛は主君政職に織田につくよう説得。信長に会い中国攻めを進言する。播磨の諸将もいったん織田方へ引き入れたものの、一斉に反旗を翻す。摂津国有岡城 (伊丹市) では荒木村重が謀反を起こし、説得のため単身向かうが、1年間土牢に幽閉されてしまう。

その後、播磨を平定した羽柴 (豊臣) 秀吉に姫路城を差し出し、自身は父職隆とともに国府山城 (姫路市) へ。

秀吉の備中高松城攻めの際、本能寺の変が起き、うろたえる秀吉に「運が開けてきた。天下取りの好機」と「中国大返し」を進言。山崎の合戦で明智光秀を討った秀吉は天下統一の道を歩むことになる。

1587 (天正15) 年には、九州・豊前6郡12万石の大名となり、播磨を去る。

秀吉の天下統一に貢献した官兵衛だが、朝鮮出兵で許可なく帰国したとして、秀吉の怒りを買って謹慎。官兵衛の才を秀吉は恐れていたといい、このころから2人は距離を置くようになったともいわれる。

関ヶ原の戦いでは、嫡男長政が徳川家康方 (東軍) につく一方、官兵衛は中津城 (大分県中津市) を拠点に挙兵、石垣原の戦いなどに勝利して九州の大半を平定。天下をも視野に入れていたとされるが、関ヶ原の戦いに勝利した家康の命により停戦。天下取りの夢はついに果たさなかった。